

分野	専門分野Ⅰ －基礎看護学－	対象学年	2
		時期	前期～後期
授業科目	共通基本技術Ⅲ (看護過程) Common Basic Nursing Skills Ⅲ	単位	1
		時間	30
		方法	講義・演習
担当教員	専任教員 附属病院で10年間の実務経験有		
科目責任者	専任教員		
授業概要	看護過程は、情報を収集してその情報を分析し、その分析から、対象の健康上の問題を明らかにする。その問題を解決するために援助計画をたて、実践し評価するという経過をたどる。このことにより効果的で質の高い援助につながる。看護過程の展開に必要な思考として、クリティカルシンキングを用いることが有効である。この思考は、繰り返し使うことにより身につけていく。そのために、紙上事例を用いて、看護過程の一連の過程を体験する。そのことにより、看護過程の基盤となる考え方とその実際を学ぶ。		
目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. クリティカルシンキングの思考を養う。</li> <li>2. 看護過程の一連のプロセスを理解する。</li> <li>3. 事例を通して、看護過程を展開する。</li> <li>4. 対象の尊厳に配慮する態度を養う。</li> <li>5. わからないことを自ら考え、調べる姿勢を養う。</li> <li>6. 主体的に取り組む姿勢を養う。</li> </ol>		
評価方法	終講試験 70点 授業で取り組む課題評価 30点 ・アセスメント10点 ・関連図、統合アセスメント10点 ・看護診断、計画10点		
使用テキスト	系統学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護技術Ⅰ 基礎看護学 NANDA-I 看護診断 定義と分類 北米看護診断協会 NEW実践 看護診断を導く 情報収集・アセスメント[第5版] 学研		
参考図書			
メッセージ	<b>【看護過程の基本となる考え方】</b> 看護の核となる思考の学習です。看護とは何か考えながら学びましょう。 <b>【看護過程の構成要素】</b> 看護の核となる思考の学習です。看護過程の展開が実際にできるよう取り組みましょう。		

回数	単元・主題	授業のねらい	授業内容	方法	備考
1	I 看護過程の基本となる考え方 看護過程の意義	看護過程の意義について理解する	1年次既習の看護過程を振り返りながら、看護過程を学ぶ意義について理解していく。	講義	
2	II 看護過程の構成要素 1.アセスメント ①	アセスメント（情報の分析）について理解する	看護過程の構成要素に沿って、アセスメントから学習する。 NANDA-I を活用したアセスメントの視点と照らし合わせて分析をしていく。	講義	
3	2.アセスメント ②	アセスメント（情報の分析）について理解する	NANDA-I の各領域の視点と照らし合わせて分析をする。	講義	
4	3.アセスメント ③	アセスメント（情報の分析）について理解する	NANDA-I の各領域の視点と照らし合わせて分析する。 関連図で情報をつなげ関連性を考える。	講義	
5	4.アセスメント ④	アセスメント（全体像の整理）について理解できる	対象の全体像を表す関連図から統合アセスメントとして全体像を整理する。	講義	

6	5.看護診断①	看護診断について理解する	対象の全体像から看護問題を明確にしていく。 看護問題の優先順位の考え方や看護問題の表現方法について学習する。	講義	
7	6.看護診断②	看護診断について理解する	NANDA-Iの診断概念を学習し、対象の看護問題を看護診断で表現する。	講義	
8	7.看護計画	看護計画について理解する	対象にとって期待される成果や看護介入を考える。看護計画としてまとめていく。	講義	
9	8.実施、評価、 看護記録	実施・評価・看護記録について理解する	実施上の留意事項や、記録の実際、評価の方法について学習する。	講義	
10	Ⅲ看護過程の 実際 1.アセスメント ①	演習を通して、アセスメントができる	紙上事例をもとに、アセスメントする。	演習	
11	2.アセスメント ②	演習を通して、アセスメントができる	アセスメントの過程において、疑問を解決しながらすすめていく。	演習	
12	3.アセスメント ③	演習を通して、アセスメントができる	アセスメントの過程において、疑問を解決しながらすすめていく。	演習	
13	4.看護診断	演習を通して、統合アセスメント、看護診断を実施できる	統合アセスメント、看護診断 得られた情報を統合し、看護診断を考える。	演習	
14	5.看護計画	演習を通して、看護計画を実施できる	看護計画 対象にあわせた看護計画を立案する。	演習	
15			終講試験		